

クローバーつうしん

CLOVER TIMES



2017年4月1日 第36号
公益財団法人 金森和心会
クローバー子供図書館 / 発行
〒963-8851 郡山市開成6-346-1
TEL/FAX 024-932-2118



<http://www.k-washinkai.or.jp/clover/clover.html>

声に出して読む「じゃ」

関根 みどり

昭和50年5月創刊。タウン誌「街・こおりやま」が4月号、No.504で終刊となった。寂しさと共に、その見事な幕引きに拍手。みなさんは、「街・こおりやま・ふるさと賞」を御存知だろうか？「郷土を愛し、ふるさと郡山の街づくりの為に日夜努力している市民の埋れた功績を評価し、顕彰すると共に、一層の活躍を期待して送られる」ものだ。

因みに平成6年第5回にクローバー子供図書館。平成25年第24回に私も参加している「おはなしたまご」も頂いている。無欲で楽しんでいただけに、とても嬉しく、ありがたいこと。

さて私は、視覚障害の方々の支援をしているボランティアグループ「くるみ会」の伊藤会長の依頼を受け、「街・こおりやま」を録音して、三年半あまりになる。三人目の担当者となるが、これがなかなか難しい！書き手は御年配の方々が多く、博学で、漢字も難しい。辞書を三・四冊手元に置き、最後は、副編集長に確認。ここまででエネルギーの半分は使うだろう。お聞きくださる方からは、朗読ではなく「音訳」であることに心して！とレクチャーを受ける。

例えば、「日本」をニッポンと読むか、ニホンと読むか、悩ましい事。目に頼って、いかに読み飛ばしていることか。責任を感じる。

同じ声に出して読むことでも、絵本の読み聞かせは、無条件に楽しい。子供達が目の前に居てくれるからだ。子供達の興味のあることに、ドンピ

シャの絵本となれば、もう、こちらも大喜び。子供達目がキラキラ。体も前のめり。いっしょに声を出して参加するタイプの本。たとえば、「きょうはみんなでクマがりだ」(評論社)「あーといつてよあー」(福音館)「あっちやんあがつく」(リール)など多数あるが、こちらは体も動き出す、子供達とお付き合いが続けてこられたのも、この元気のおかげだ。

子供達の生活も時代とともに変わって行く部分も多い。午前中だと言うのに、欠伸する子、思わずコックリの子。先日は、しっかりと寝続ける子もいて驚いた。生活のリズムができなかつたり、遅くにずれ込んだりするのだろうか。

ぜひ親子で寝る前の読書習慣を取り戻してほしい。最近「絵本は、図書館・幼稚園などの施設で、他人に読んでもらうもの」と思っているお母さんもいるようだ。

「寝ろ！」と怒鳴るより、たとえ親が先に寝入っても、よい絵本と守ってくれる大人の暖かさを感じて寝入る幸せは、子供への何よりの贈り物だ。子供は手をかけ、目をかけ、声をかけて育てるものだと思う。

よい絵本や物語が、大好きな人の声によって導かれる幸福な時間を子供達に送りたい。幼稚園の先生は言う。「ページをめくるのでなく、スマホのように指をすべらせる子の姿はめずらしくない」と：



「きょうはみんなでクマがりだ」
マイケル・ローゼン/再話
ヘレン・オクセンバリー/絵
山口文生/訳
評論社



「あーといつてよあー」
小野寺悦子/文
堀川理万子/絵
福音館書店

2月4日
第19回 子ども講座
「くまさんのとけい
をつくろう」



くまの形をした文字盤に好きな色を塗って、針と機械を取り付け、時計を作りま
した。カラフルに可愛く仕上がったくまさんの時計と、楽しい時を刻んでね！

「くまさんのとけいをつくって」 すずきじゅり 5才

つくるまえのひから、くまさんのいろをなにいろにしようかと
かんがえていました。とうじつ、おかあさんといっ
しょにすきないろをぬって、かわいくまの

とけいができたのでうれしかった
です。いつもみえるところ
にかざりました。

1月26日
「おはなの
フローチ&髪飾り」



フェルトをカットし、クルクル丸め
縫いとめて、ピン又はゴムを付けて完成！
その後、お茶を飲みながら講座や本等のリク
エストのお話も伺えて有意義な時間となりました。

「ワークショップに参加して」 小野寺 仁望
今回初めて参加しましたが、とても楽しく製作

させて頂きました。館内のスタッフさんも優
しく楽しく指導して頂き、お茶の時間は周
りの方とも仲良くなれ、とても素敵な
時間でした。髪飾りも不器用な私
でも簡単に作る事が出来
ました。また来たい
と思います。



「きょうは
何枚はれる？」

何冊でも本が借りられる「貸出
無制限」が昨年度も5回ありました。

期間中、返した本の冊数分のシールを台紙に
貼るのですが、「今日は何枚はれる？」「あと
〇冊でしおりがもらえる！」と、みんな楽しんで
参加してくれました。135名の参加者の中で、
たくさん読んだお友達を紹介します。

- ①鈴木樹璃さん(280冊)②橋本夢空さん(180冊)
- ③永倉愛子さん(175冊)④小鷹夕璃さん
(162冊)⑤高木陽花里さん(150冊)



2016年度
事業報告

*開館日数 215日

*入館者数 10,726人

*登録者数

乳幼児	小学生	成人	計
187人	146人	500人	833人



*貸出人数

子供	成人	計
2,348人	3,851人	6,199人

*貸出冊数

子供	成人	計
13,191冊	12,811冊	26,002冊

*団体貸出

団体数	対象会員数	貸出冊数
10組	948人	1,852冊

*えほんのじかん

実施回数 85回
参加人数 459人

*行事

子供対象 12回 (582人参加)
成人対象 1回 (6人参加)

おすすめ!

新刊 あんない



「6さいのきみへ」
佐々木正美/文、佐竹美保/絵
小学館



「桜の下で待っている」
彩瀬まる/著
実業之日本社



「猫魔ヶ岳の妖怪 福島の伝説」
八百板洋子/再話
斎藤隆夫/絵
福音館書店



「国見町食卓図鑑」
国見町企画情報課
総合政策室



「おにぼう」
くすのきしげのり/文
伊藤秀男/絵
PHP 研究所



「どんなスペースもアイデア次第!
小さな庭のつくり方」
朝日新聞出版

イベントのおしらせ

*こどもの読書週間

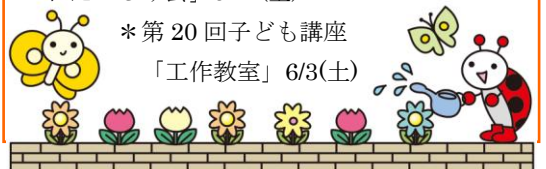
「貸出無制限」4/11(火)~5/12(金)

「元気におよげこいのぼり」4/18(火)~5/12(金)

「おたのしみ会」5/12(金)

*第20回子ども講座

「工作教室」6/3(土)



寄贈図書

本をいただき、ありがとうございました。

長尾勉様(郡山)『猫魔ヶ岳の妖怪 福島の伝説』
金子豊三様(郡山)『ブラック・チェンバー』など
早尾真澄様(郡山)『屋根ひとつ お茶一杯』など
福島県伊達郡国見町教育委員会『国見町食卓図鑑』

気がいっぱいです。ツプも、新年度を迎え、頑張る
のニュース」に出た私たちスタ
いっばいです。FTV「みんな
胸をワクワクふくらませ、元
園生、小学生になる子供たち
ようになりました。春から幼
り、桜の開花の話も聞かれる
かった風がほんのり暖かくな
いっばいです。

編集後記

開館日のごあんない
火・水・木・金・
土(第1・3・5)
午後1時~6時
※月末は休館します。
※5月6日は休館します。
5月13日は開館します。